

漁業の概要

外房では様々な小型漁船漁業が営まれており、鴨川市～御宿町の漁業者の操業形態の一つとして、主に立縄によりキンメダイを漁獲し、漁期により海士でアワビ、刺網でイセエビ・ヒラメを獲っています。また、カツオや小型のクロマグロ(メジ)は来遊状況に応じて曳縄により漁獲しています。

キンメダイは自主的な資源管理が進んでいる魚種であり、漁業者は業種別漁協である千葉県沿岸小型漁船漁協に加入し、7月～9月の3か月間を禁漁期間として設定するとともに巻き上げ機を1人1台までに制限するなど厳しい資源管理を実践しています。加えて、釣上げ直後から最適な保冷水温や塩分で管理することで、品質が高く評価され、「外房つりきんめ鯛」として千葉ブランド水産物に認定されています。



立縄漁業の操業

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	1,400万円
経費	400万円
漁業所得	1,000万円

立縄漁業(2人乗り)の場合

※上記は漁業者からの聞き取りを基にした一例であり、年、資源状況、習熟度等によって大きく変動します。

各漁業の年間操業計画

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
立縄	→									←		
刺網								←	→			
海士					←	→						
曳縄	→	←	←	←	←	←						←

1日の操業スケジュール例

▼立縄漁業(10月～翌6月)

4:00～5:30	出港・漁場へ移動
5:30～6:00	魚群の探索
6:00～10:00	操業(4時間以内)
10:00～11:30	帰港
11:30～13:00	水揚げ作業・メンテナンス等・解散

▼海士漁業(5月～9月)

9:00～14:00	操業(移動無し)
------------	----------

就業と漁労作業

就業については、地元の船団に相談した上で、既存の漁業者に乗組員として雇用されることになります。

漁業は、船長が魚群探知機で狙う魚群を選び、乗組員と共に漁具(立縄)を投入します。重りが海底に着いたら、枝縄が海底から離れないように、道糸を伸ばし、海底をうようにします。その後、巻き上げ機で巻き取り、枝縄を手繰りながら、キンメダイを漁獲します。

漁獲したキンメダイは直ちに、保冷能力が高いクーラーボックスや魚倉で保管します。この作業を繰り返します。

外房

小型漁船漁業【はえ縄漁業等】(雇用型・独立型)

漁業の概要

外房では、様々な小型漁船漁業が営まれており、鴨川市～勝浦市の漁業者の操業形態の1つとして、はえ縄を主としてマグロ・カジキ類を漁獲し、季節により海士でアワビ、刺網でイセエビを獲っています。

はえ縄の漁場は岸から70～140km沖(伊豆諸島近海や房総半島沖)にあります。はえ縄は長さが20～30kmにもなるので、船団で操業し、漁具が絡まないように全船が整列した上で、投縄を行っています。また、活餌(サバ)を用いることから、投縄前に立縄で餌を釣ります。操業時の労働は厳しいものがありますが、はえ縄漁業者は高級魚であるクロマグロやメバチを釣上げることに格別な思いがあります。また、地元のはえ縄船が漁獲するマカジキの美味しさや品質を知ってもらうため、ブランド化に向けた品質保持等の取組も行っています。



はえ縄漁業の操業

対象魚種	①はえ縄:マカジキ、マグロ類 ②刺網:イセエビ、海士:アワビ ③立縄:キンメダイ
漁船の規模	はえ縄、立縄:5～10トン前後の船内機船 刺網、海士:1トン前後の船外機船
乗組員数	2～3人
年間労働日数	海上130日、陸上50日。第1、3土曜日を休漁(キンメダイは毎週土曜)。
技術習得期間	10年程度

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	4,000万円
経費	2,500万円
漁業所得	1,500万円

はえ縄漁業(3人乗り)の場合

※上記は漁業者からの聞き取りを基にした一例であり、年、資源状況、習熟度等によって大きく変動します。

各漁業の年間操業計画

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
はえ縄	→	→	→	→	→						←	←
刺網								←	←	←	←	
海士						←	←	←	←			
立縄					←	←	←					

1日の操業スケジュール例

▼はえ縄漁業(11月～翌5月)

3:00～5:00	出港・餌場へ移動
5:00～6:30	餌(サバ)を釣る
6:30～9:00	漁場へ移動
9:00～10:00	はえ縄の絡み防止のため、操業船整列
10:00～12:00	投縄作業
12:00～13:00	揚縄準備・休憩
13:00～17:00	揚縄作業
～21:30	帰港・水揚げ作業・操業準備、解散

就業と漁労作業

独立就業に向けては、はえ縄の漁業技術を身に付け、必要な機器等を装備した漁船を入手するとともに、乗組員1名以上を確保する必要があります。

そのためにまずは乗組員として、はえ縄漁船に乗船し、漁業技術を習得することが重要です。

はえ縄漁業の漁労作業としては、左記スケジュールの各作業を船長と共に行います。

外房

小型漁船漁業【まき刺網漁業等】(雇用型・独立型)

漁業の概要

外房では様々な小型漁船漁業が営まれており、いすみ市の地先には器械根と呼ばれる岩礁帯が広がっています。季節変化に応じて多種多様な魚種が来遊するので、この地区の漁業者は、魚群を刺網で巻いて漁獲するまき刺網漁業などを中心に所得に繋がる魚種を臨機応変に漁獲しています。

例えばイセエビの刺網を操業していた日にブリ類の来遊情報を入手すれば、すぐに網を積み替えて次の日にはまき刺網を操業することがあります。さらに、相場によっては、まき刺網を操業した後に、たこつぼを揚げに行く日もあります。

まき刺網は網から漁獲物を外したり、切れた網を繕ったりと人手が必要で、時には15人以上の作業員が必要になることから、皆で和気あいあいと作業できる雰囲気があります。

いすみ市では「いすみ産マダイ」、「外房イセエビ」、「太東・大原産真蛸」、「いすみ産大さざえ」と多くの産品が千葉ブランド水産物に認定されています。



まき刺網漁業の水揚げ

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	3,700万円
経費	2,400万円
漁業所得	1,300万円

まき刺網漁業(3人乗り)の場合

※上記は漁業者からの聞き取りを基にした一例であり、年、資源状況、習熟度等によって大きく変動します。

対象魚種	①まき刺網:ブリ類、サワラ、マダイ ②はえ縄:トラフグ、④たこつぼ:マダコ ③刺網:イセエビ、サザエ ⑤曳縄:サワラ
漁船の規模	5～10トン前後の船内機船
乗組員数	2～4人
年間労働日数	海上200日、陸上30日、第1、3日曜休漁、6月、11月連休有り。
技術習得期間	3～5年程度

各漁業の年間操業計画

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
まき刺網	←ブリ類、サワラ、マダイ→					※サワラは3月まで						
はえ縄	←トラフグ→					←マダイ→					←	
刺網				←				←				
たこつぼ・曳縄	←マダコ・サワラ→					←イセエビ、サザエ→						←

1日の操業スケジュール例

▼まき刺網漁業(1月～5月)

4:00～4:30	出港・漁場へ移動
4:30～5:00	操業(魚群の探索)
5:00～6:00	操業(投網、追立、揚網)
6:00～6:30	帰港
6:30～10:00	網からの魚外し
10:00～12:00	水揚げ作業、メンテナンス、翌日準備

就業と漁労作業

本地区の小型漁船漁業では、既存漁業者の乗組員として就業し、地元の漁業者との信頼関係を築きながら、漁業技術を習得していきます。

まき刺網漁業の漁労作業としては、左記スケジュールの各作業を船長、他乗組員と共に協力しながら行います。